

環境モデル都市提案の概要

【茨城県 つくば市】つくば環境スタイル”SMILe”～みんなの知恵とテクノロジーで笑顔になる街～

人口:21万人

我が国の約3分の1の国等の研究機関、多くの民間研究機関・企業が立地する国際研究開発拠点という特性を活かし、最先端のハイクオリティな低炭素都市を目指す提案。『コミュニティライフ』『モビリティ・交通』『最先端技術』『環境教育、実践』の4つの統合アプローチで、高齢者や子どもをはじめあらゆる層の人々が笑顔になる街の実現を目指す。オールつくばでの連携体制をベースに、人々の暮らし(特に、建築活動や移動)に起因するCO₂の重点的に削減するモデルの構築を図る。

【新潟県 新潟市】「田園型環境都市にいがた」～地域が育む豊かな価値が循環するまち～

人口:81万人

新潟市の特徴である“田園”の持つポテンシャルを最大限活用し、都市と田園の『調和ある発展』と『豊かな価値の循環』による低炭素型都市づくりを目指す提案。大都市において、都市部と農村部との連携を前面に出した低炭素型都市モデルの構築は他に例がなく、先進事例としての波及効果が期待できる。「田園環境の保全・持続可能な利用」「スマートエネルギーシティの構築」「低炭素型交通への転換」「低炭素型ライフスタイルへの転換」の4つの方針による取組を推進することで「田園型環境都市にいがた」の実現を図る。

【岐阜県 御嵩町(みたけちょう)】

地域資源(森林、公共交通、再生可能エネルギー等)を活かした低炭素コミュニティ「みたけ」の実現

人口:1.9万人

中山道の宿場や希少動植物が生息する貴重な自然環境を有する里山のまちによる、森林を切り口とした提案。かつて「亜炭のまち」として日本のエネルギーを支えたまちは、現在深刻な廃坑陥没被害という課題を抱えており、この課題解決を図るなかで低炭素社会の形成を目指す。

「森林再生」「公共交通再生」「家庭活動」「廃坑の大規模陥没も想定した分散型エネルギーシフト」の4分野で取組を進める。

【兵庫県 神戸市】 神戸市環境モデル都市

人口:152万人

多様な地域特性やコンパクトな都市構造、六甲山の豊かな緑などといった特徴を活かした提案。都市空間そのものを低炭素型へと変革し、温室効果ガスの大幅な排出削減を目指す。森林、田園、市街地、港という全国の都市要素を備え、市内GDPは全国の約1%、CO₂の部門別排出割合も全国平均とほぼ同じであるなど、わが国の縮図のような都市であるため、神戸市での成功事例が全国のモデルとして波及することが期待できる。

【兵庫県 尼崎市(あまがさき)】「ECO 未来都市あまがさき」へのチャレンジ

人口:46万人

大阪湾岸・大阪市に隣接し古くから交通・運輸の要衝として栄えた、コンパクトな市域における産業機能・都市機能の集積を活かした提案。基礎素材型産業をはじめ最先端技術を有する企業が立地しており、グリーンイノベーションによって経済成長とCO₂削減の両立を目指す。過去、深刻な大気汚染や水質汚濁などを経験したが、産業界、市民、行政の努力により克服しており、その過程で生まれた市民の高い環境意識を背景に取組をすすめる。

【岡山県 西粟倉村(にしあわくらそん)】「上質な田舎」を目指した、低炭素モデル社会の創造

人口:1600人

村の面積の95%を占める森林の保全と活用の両立を目指す提案。ICTを活用し住民・役場・森林組合の協働で森林保全を進める「長期施業管理委託」や社会貢献ファンド産材の直販、都市との連携を推進する地域商社「(株)西粟倉・森の学校」など先駆的な取組が特徴。わが国の中山間地における低炭素地域モデルを目指す。

【愛媛県 松山市】環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」

人口:52万人

国内屈指の豊富な日射量(過去5年間の平均日照時間は約2090時間)を地域特性とし、太陽エネルギーをより有効に脱温暖化と産業創出に活かす「松山サンシャインプロジェクト」が特徴。「再生可能エネルギー」「ライフスタイル」「事業活動」「脱自動車依存型コンパクトシティ」「豊かな自然環境」「環境学習」の6つの基本施策により、持続可能な低炭素社会の構築を目指す。